

DESIGNING FOR HOSPITALITY

ホテルのインテリア
ホテルニューオータニ | Hotel New Otani



2009年、開業45周年を迎えた「ホテルニューオータニ」。400年の歴史を持つ日本庭園、クラシカルな雰囲気を残すメインラウンジやアーケードは、今も威厳のある佇まいを見せ、客を魅了し続けている。2007年には、「ザ・メイン(本館)」の全面リニューアルを行い、ハイブリッドホテルとしてリ・オープンした。ホテル全体で地球環境への配慮に取り組み、快適なホテルステイを堪能できるデザインを追求している。

「ホテル・イン・ホテル」をコンセプトにした特別フロア「エグゼクティブハウス 禪」は、「ザ・メイン」の11階と12階に位置し、ゲストルームは全87室だ。「侘び・寂び」をメインテーマに、墨を基調にしたデザインからは、洗練された日本の美が伝わってくる。

今号は、東京の顔として親しまれてきた名門ホテルのデザイン学に迫った。

400年の歴史を持つ由緒ある日本庭園に囲まれ、都心にありながら喧騒から離れた静寂の中に佇む「ホテルニューオータニ」。1964年に開業した本館(現在のザ・メイン)は、2005年より「ハイブリッドホテルプロジェクト」と題して、地球環境への配慮とお客さまの快適性につながるホテルづくりを目指し、全面改修を経て、2007年に「ハイブリッドホテル」としてリ・オープンしました。

ハイブリッドホテルプロジェクトとは、異なるものを組み合わせてひとつのものをつくり上げる「ハイブリッド」という言葉に端を発し、快適性、安全性、IT化を追求しつつ、地球環境への負担低減を同時に実現することを目的としています。個別に室内の調節が可能となった独自の空調システム「AEMS(エイムス)」や、熱や紫外線などを50%カットすることのできるペアガラスを壁全面に使用することで、室内の急激な

温度変化を抑えつつ格別の眺望を確保することが可能になった「フルハイトウインドウ」など、お客さまの快適性を向上させながら、地球環境に優しいハードを導入いたしました。

そのハイブリッドホテルプロジェクトの集大成ともいえるものが、「ホテル・イン・ホテル」というコンセプトの下で2007年10月にオープンした日本発のラグジュアリーホテル、「エグゼクティブハウス 禪」です。「ザ・メイ

ン」の11階と12階に全87室あり、「日本の伝統美」である墨のイメージを基調とした洗練された空間、そして1日4回のフードプレゼンテーションをお楽しみいただける「エグゼクティブラウンジ」に専任スタッフを常駐させるなど、ラグジュアリーな空間とサービスを提供しながら、先述の技術を導入することによって地球環境に優しいホテルリノベーションに成功いたしました。今や地球温暖化対策は、人類共通の課

題です。特に社会的地位の高いエグゼクティブは、自らが率先してその課題を解決する必要性を強く感じているように思われます。「ホテルニューオータニ」を選択するだけで地球環境へ少なからず貢献しているという感覚は、ホテルを利用するお客さまにとって、快適なホテルステイという満足感とともに、心の芯まで温まるような幸福感を育むことと思います。これからの時代、ホテルを選択する基準のひとつになる

であろう「環境」という付加価値を提案しつつ、これからも最上級の“おもてなし”を「ホテルニューオータニ」は提供し続けます。

【建築概要】

名称: ホテルニューオータニ
所在地: 東京都千代田区紀尾井町4-1
敷地面積: 69,226㎡ | 建築面積: 19,977㎡ | 延床面積: 291,041㎡ | 客室数: 1,479室(エグゼクティブハウス 禪: 87室) | 開業: 1964年 | 改修: ザ・メイン: 2007年
ホームページ: <http://www.newotani.co.jp/tokyo/>
内装設計: エグゼクティブハウス 禪: スタジオ・エム

HOTEL'S COMMENT

ホテルズコメント | ホテルニューオータニが追求する真の快適性とは

石黒孝大 | Takahiro Ishiguro

いしくろ・たかひろ — ホテルニューオータニ マネジメントサービス部 マネジメントサービス課 広報担当



- 1—メインラウンジ: 落ち着いた色調のテーブルとチェア、絨毯によって重厚さを醸し出している
- 2—威厳のある佇まいを見せるメインフロント
- 3—常に新しく、自由に個性を映し出す草月流の生け花は正面玄関のシンボル
- 4—エレベータホール: 幾何学的な模様の絨毯がクラシカルな空間の中にもモダンな印象を与えている



- 5—フランス料理トゥールダルジャン: シャンデリア、カーテンのドレープが華麗な空間を演出している
- 6—ザ・メインとガーデンタワーを結ぶアーケード: 大柄の花模様の絨毯がエレガントで、なおかつ上質な雰囲気を出している。右は一流ブランドの店舗が並ぶ
- 7—ガーデンラウンジ: 400年の歴史がある1万坪の日本庭園を見ながら食事ができる特別な空間
- 8—東面外観: 正面はザ・メイン、奥はガーデンタワー。ザ・メインは2007年に全面リニューアルされた

人々は浜辺に立った時、森林に立ち入った時、周りの景色や鳥のさえずり、さざ波などの音で、うっとりとする感覚がある。その場にいて日頃のストレスや雑念が消え去り、とてもリラックスし、豊かな満たされた気持ちになる。それは私たちが日頃、失っている繊細な潜在感覚が呼び戻される瞬間でもある。このホテル空間はそういう瞬間を体験できるように工夫してある。「ホテルニューオータニ」ではリラックス感

を味わうことのできる「エグゼクティブハウス 禅」の「禅スタイル」という聖域を提案し、安らぎのある落ち着いた空間を提供した。禅スタイルとは、メディテーション(瞑想)をする祈りの場でもなければ、日本のお寺で座禅を組む場でもない。あくまでも精神性を表し、豊かであるけれども緊張感があり、機能的に満たされ、そして美しく研ぎ澄まされた上質感を表現した。さらに詳細な表現をするために、洗練された癒しの色、自然な

テクスチャ、和のテイストを持つ優雅な形、芳醇な香りなどの各要素がハーモニーを醸し出し、禅スタイルを構成していくことを考えた。そして宿泊される客を元気づけ、疲れを癒す空気で充滿する客室をつくり上げた。

これらの実現のための5つの基本コンセプトは、以下である。

1. 光——自然光をできるだけ多く室内に取り込み、精神をリフレッシュし、生命力を

高める空間であること。

「ホテルニューオータニ」の持っている立地や歴史的価値観をより高めるため、昔の日本家屋に見られた縁側や通り土間など“半屋外”と呼ぶべきあまいな空間を意識し、全面ガラス張りとすることによって、風景を客室に存分に取り込み、自然との一体感を味わえる空間とした。

2. 空間構成——精神性から求められる空間。

茶室のミニマム空間、数寄屋の精神性、アシンメトリーな最小の空間に広がる豊かさを表現する。洗練された色合いで“侘び・寂び”をモダンにコーディネートしている。

3. シンプル——心と体を落ち着かせる整った空間。

4. 自然——命の息吹に触れる。自然素材、江戸小紋や切り子などの地域の形・伝統色をコーディネートし、心に響く感覚を味わう。

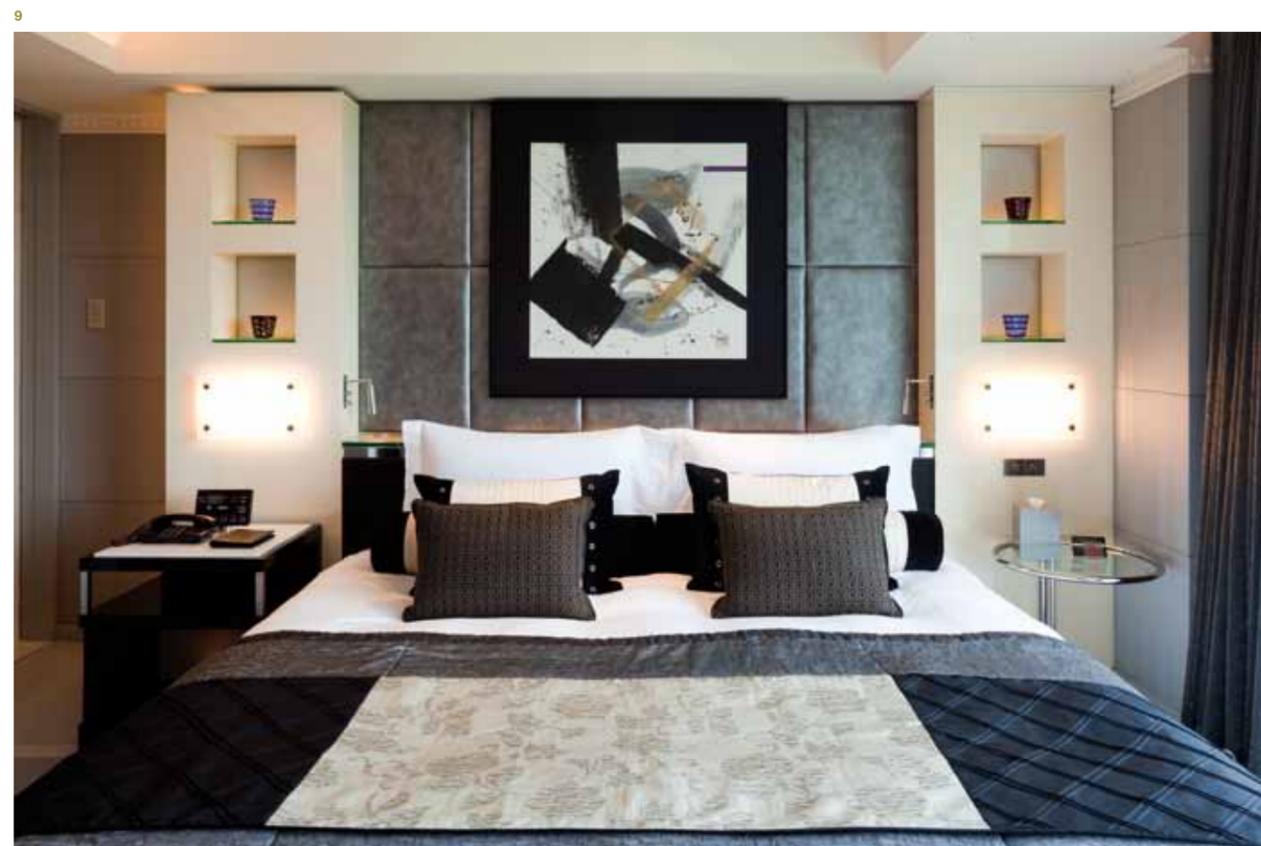
5. 音・香り・アート——五感をフルに刺激する癒し空間。

自然界の癒し音と香りをセットして室内に充滿させる。古代より音や香り・アートは、神への捧げものや病人への薬としてなど、心を癒す芸術療法として応用されてきた。以上のコンセプトはホテルデザインにとっては必要不可欠な要素であり、空間を上質なものに創造するベースになると考えている。

DESIGNER'S COMMENT

デザイナーズコメント | 墨をモチーフに禅スタイルを演出

柴田嘉夫 | Yoshio Shibata



9——ジュニアスイートのベッドルーム:正面の墨アート(書道墨象系作家・井幡松亭氏作)を中心に、黒を基調にしたさまざまな和テイストのインテリアがモダンな空間を彩っている

10——漆と和紙でコーディネートされたライティングデスクの照明

11——エグゼクティブラウンジ:「ホテル・イン・ホテル」をコンセプトに設けられた特別フロア「エグゼクティブハウス 禅」の専用ラウンジ。専任のスタッフが常駐し、チェックイン・チェックアウトはここでやっている

12——エグゼクティブラウンジのエントランススペース:「侘び・寂び」をテーマにした日本の和で出迎える

13——「エグゼクティブハウス 禅」のエレベーターホールの絨毯:このフロアのパブリックスペースの絨毯は「墨」をモチーフにしたデザインで統一されている



14——ガーデンスイートのリビング:江戸時代から伝わる金、黄、紅色とさまざまな種類の茶色でまとめられた和みの空間。「エグゼクティブハウス 禅」の客室は一つひとつ趣が異なるが、一貫して「侘び・寂び」をテーマにモダンにデザインされている

15——ベッドサイドのチェスト:フリンジの付いた取っ手が、さりげなく和の雰囲気を感じさせる

16——居心地の良いホテルステイには欠かせないクッション | 17——癒しの空間を引き立たせる渦巻き模様の客室の絨毯

18——アーティスティックな置き物:メタリック系の器と糸玉風の炭のオブジェは消臭効果もある | 19——バスルームに置かれたアクリル製のチェア:和テイストの空間の中に現代的な雰囲気も垣間見える